



キャリアバラエティ、今回ご紹介するのは、i-pad を使って絵を描く絵 Pad や絵画教室を主宰する傍ら、様々なジャンルの魅力的なイベントを企画・運営されている伴克子さん。

実は企業でのお勤め経験がほとんどない伴さんが、いろいろな人を巻き込みながら、数々のイベントを運営されるようになったきっかけやこれまでのこと、これからのことをお聞きしました。



【伴克子さんのキャリアバラエティ 1 / 5】

大学では児童教育を専攻されていた伴さん、卒業後は、ゼミの教授からの「就職なんてしなくてもいいよ、社会のしがらみにもまれるだけだから～」の言葉もあって、いわゆる新卒での就職はしなかったそうです。アルバイトくらいはしておこうかな？と、履歴書を市役所に送ったところ、市役所ではなく合同庁舎内の行政機関でのアルバイト採用が決定しました。アルバイト時代は、とにかく部署内でモテモテ♡ 3 か月間のアルバイト期間中、一人でランチをとったことがないくらい、職場のみなさんに可愛がられていたそうです。そんな職場でご主人と出会い、結婚、その後は家族をサポートする生活を送っていました。



【伴克子さんのキャリアバラエティ 2 / 5】

絵は苦手だったとおっしゃる伴さんが、絵画教室で生徒さんに絵を教えるなど、絵に関わるようになったきっかけは何だったのでしょうか？お子さんの手が離れ始めたときに、当時、流行していたトールペイントを始められたそうです。下絵があるので、絵が苦手でもこれならできるかもしれない！とのめり込んだところ、めきめきと上達。教室を開くまでになります。

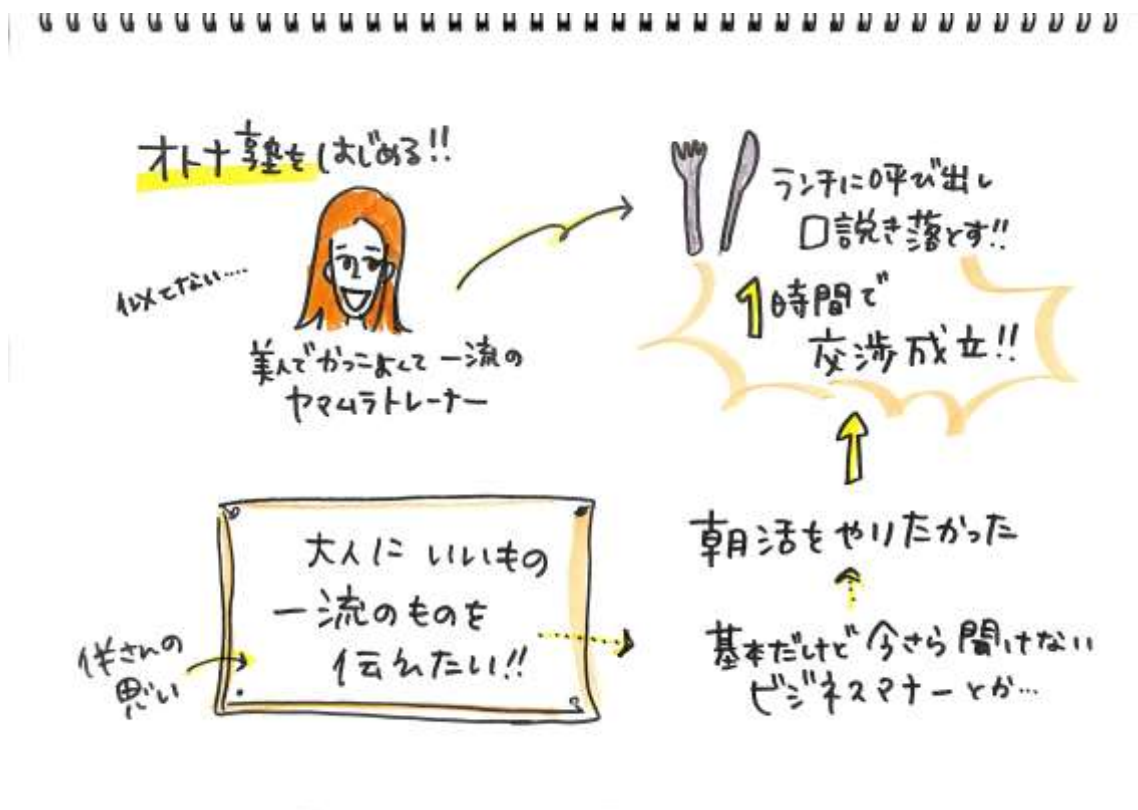
トールペイントを極めた伴さんは、絵を本格的に学び始めます。先生に師事し、厳しいダメ出しを受けながらも、見る目が養われたり、ムサビ（武蔵野美術大学）の通信過程に進まれたり、とある個展で、一目でとりこになった熊本在住の画家のもとで学んだり、貪欲に吸収されていたそうです。熊本在住の先生からは、絵は道具がなくても、場所がなくても、情熱があれば描ける！ということ、身を持って教えてもらったそうです。



【伴克子さんのキャリアバラエティ 3 / 5】

今や数々のイベントを手掛けている伴さんが、人を巻き込みながら実行していく体験をされたのが、国際交流のボランティア活動だったそうです。

これは世界各国の11歳の子どもが1か月間、海外のどこかで暮らす、というプログラム。お子さんが通われていた英語教室で紹介され、「親ではこの体験はさせられない！体験させたい！」と、お二人の兄弟を国際交流プログラムに送り出したとか。異国の地で、文化や背景の違う人たちとの暮らしは、子どもの感性や想像力、生きる力をつける上でとても大切な経験だったそうです。。お子さんのプログラム参加が終わった後は、実行委員としてイベントの運営に従事。夜な夜な固定電話と携帯電話を駆使し、方々と調整しながらイベントの成功に導きました。このボランティア活動は大変なことも多かったとのことですが、鍛えられたし、今の伴さんの基礎になっていると仰っていました。



【伴克子さんのキャリアバラエティ 4 / 5】

その後もイベントやワークショップの企画・運営を行っていた伴さんは、4年前に Fukuoka オトナ塾を立ち上げます。これからの時代、個々のスキルアップは不可欠、研修の機会の少ない個人やビジネスパーソンに対して、ビジネススキルのスキルアップができる講座、それも本物、一流の内容を安く提供したいと考えるようになりました。そこで出会ったのが、大学の同窓生でもあり、一流のビジネスマナーやコーチングのコーチでもある山村トレーナー。山村トレーナーの講座を開きたい！とランチに誘い、わずか1時間で交渉成立！それからは、2か月ないしは3か月に1回のペースで朝活、夜活を開催しています。朝活は1時間、夜活は2時間という短い時間ですが、時間の短さを感じさせない充実した内容で、今や人気講座になっています。



【伴克子さんのキャリアバラエティ 5 / 5】

Fukuoka オトナ塾という定期的な学びの場だけでなく、伴さんのもとにはいつも楽しくおもしろい企画が集まってきます。伴さんに、次々とイベントを企画していくその情報源やネタ元は？とお聞きしたところ、伴さんが出かけるセミナーや交流会で出会った人、聞いた話など、伴さん自身が「おもしろい！」「みんなにも教えたい、知ってほしい！」と思ったことを紹介しているに過ぎないとのこと。基本的にはこれらのイベントをお一人で企画し、運営されていますが、要所要所で助けてくれる人、力になってくれる人が現れて、話が進んでいるそうです。それはきっと、伴さんがどんなことにも興味を持って、おもしろそう！を原動力に、たくさんの人に「おもしろい！」を届けているからこそ、なのかもしれません。

まだまだ、紹介したい人はたくさんいるし、よいものは広めたい！と仰る伴さん。これからも先、伴さんがどんな企画を手掛けるのか、ますます楽しみです！